

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC Design Award が化学コミュニケーション賞を受賞

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(24)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

## ◇PVC Design Award が化学コミュニケーション賞を受賞

PVC Design Award が、日本化学連合の化学コミュニケーション賞を受賞し、3月10日に日本化学会化学会館にて授賞式がありました。同賞は、(一社)日本化学連合<sup>(注)</sup>と、(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催、(国研)科学技術振興機構の後援による表彰で、世界化学年の2011年に始まったものです。化学・化学技術に関連する啓発・普及活動を通じて、化学・化学技術に対する社会の理解を深めることに貢献している個人および団体に授与されます。

なぜ、PVC Design Award がこの賞を受賞したのか？ Awardでは、塩ビという素材の特徴や加工方法をデザイナーの方々に伝え、理解いただき、デザイン提案を受けてプロトタイプを制作していきます。その過程は、まさしく化学コミュニケーションでもあります。そして、作品そのものが、一般の方々を含めて、素材の特長や成型加工方法を理解いただくためのコミュニケーションのツールとなります。

PVC Design Award は、2011年に始まり2016年まで毎年開催され、これまでに1,247件のデザイン提案と607件の製品応募がありました。説明会や制作現場の見学会などを通じて素材についての理解が深まり、デザイン提案の質の向上へとつながっています。2016年は、日本デザイン振興会のGood Design Marunouchiにて展示会を行った際は、4,000名もの方々が来てくださいました。作品を触っていただき、素材の質感も味わっていただきました。作品は教科書よりも遙かに雄弁に語ります。メディアにおいても、一般紙、化学にとどまらない多方面の業界紙に、毎年、80件程度の記事が掲載されてきました。



右：日本化学連合 中尾真一 会長  
左：日本化学連合 五十嵐哲 常務理事  
中央：塩ビ工業・環境協会 関成孝 専務理事



化学コミュニケーション賞 賞状&amp;盾

PVC Design Award 2017 が既にスタートしています。化学コミュニケーションという側面をより一層意識して、塩ビ素材とその可能性について理解を深めていきたいと思いません。

注：日本化学連合は、H19年4月に設立され、H22年4月に一般社団法人となった化学系学協会からなる連合組織で、現在、以下の16学会が所属している。会長は中尾真一工学院大学教授（東京大学名誉教授、元化学工学会会長）

(公社)化学工学会、クロマトグラフィー科学会、光化学協会、(公社)高分子学会、(一社)触媒学会、(公社)石油学会、(一社)繊維学会、(公社)電気化学会、(一社)日本エネルギー学会、(公社)日本化学会、(一社)日本ゼオライト学会、(公社)日本セラミックス協会、日本地球化学会、(公社)日本分析化学会、(公社)日本薬学会、(公社)有機合成化学協会

参考：[2016年受賞者一覧](#)

[PVC Design Award 2017](#)

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（24）

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回、伊勢氏と度会氏とは、出雲系であることを明らかにしたが、このような関係をベースにして、改めて、天照大神の伊勢遷座問題を再検討してみることにする。

#### 8. 天照大神の伊勢遷座

まず、天照大神が大和から遷されるに当って、このことを決定したのは、時の天皇であることは間違いなくである。そうであれば『倭姫命世記』にあるように天照大神が倭姫命と共に何十年も放浪したとの記載は、にわかには信じられないことになる。大和王家に祭られていた天照大神を、最終的に伊勢に遷すなどという前代未聞の出来事を遂行するに当っては、天皇若しくは朝廷が伊勢の国造に意向を打診し、その同意を得て遷したと考えるのが常識であろう。色々遣り取りはあったかもしれないが、とにかく遷座は決まった。

次に伊勢国造は、一族の者でかねて度会地方を任せている責任者に、その鎮座を指示したのではなかろうか。血縁関係にあったことが一番の理由であろう。なお、この時代、国造という地方首長の存在は未だ一般化しておらず、伊勢国造といった呼称は適切ではないが、後の伊勢国造家の意味でこの語を用いている。

このような状況の中で、天照大神は大和から遷座してきた。このとき活躍したのが、度会地方の開拓・統治を任されていた一族の何代目かに当る大若子命と考えられる。また、この名称も当初は別名だったはずである。なぜなら「若子」なる名称はこの時代いくらかでも存在していた人名であり、これに「大」の字をつけたに過ぎないからである。若子について古事記の中から拾うと、若子宿禰（建内宿禰の子、孝元記）、男浅津間若子宿禰命（後の允恭天皇、仁徳記）、川内之若子比売（宣化天皇妃、宣化記）、橘本之若子王（欽明天皇の

皇子)、<sup>かすがのなかつ</sup>春日中若子(敏達天皇夫人<sup>おみなこのいらつめ</sup>老女子郎女の父、敏達記)等がある。書紀においては、これらは「稚子」或いは「稚」に書き換えられている。要するに古代において、「若子」はごく普通の名称に過ぎなかったと考えられる。ただ、ここに挙げた例だけでは明らかではないが、若子は比較的に高貴な人々だけに用いられた名前だったのかもしれない。従って、「大若子」はそのようなイメージを醸し出すことができる名称として、採用された可能性はある。

この名称がいつ生まれたのかは分らないが、おそらく『太神宮本記』が撰述された時期と想定される。この「大若子命」のモデルとなった人物が実在していたことはまず間違い無いと云えよう。その人物が中心となって五十鈴川の辺に鎮座地を定め、その開墾整地に多大の貢献をしたとみられ、そのことが長く度会氏の中に伝承されていたと考えられる。

このように想定してみると天照大神は直接、伊勢の五十鈴川の辺に遷って来たはずだということになる。大和から伊勢までは決して平坦な道ではない。しかし、『倭姫命世記』に述べられているような、何十年にも亘る放浪の旅が行なわれたとはとても考えられない。ではなぜこのような記述がなされたのか。恐らくこの遷座事件が度会の地で語り継がれているうちに、段々尾ひれが付いて膨らんでいったものと思われる。その後、日本書紀にこの内容が借用され、更に『太神宮本記』が編纂されたときには、主人公大若子命が登場し、大幅に潤色されたということであろう。



榎田川の上流

(大和から伊勢へ通じる道の脇を流れる。  
この道を倭姫命が通った?)

このようにして大若子命は誕生した。度会氏にしてみればこの命を文書の中だけでなく、現実の世界で宣伝する必要があった。そこで目を付けたのが榎田神社である。ここに彼らは大若子命を祀ったのである。これまでこの榎田神社に祀られていたのは先に説明したように榎玉命である。

では、誰がこの神を祭祀していたのが問題として出てくるが、これはやはり度会氏であろう。なぜなら、榎玉命はこれまでの検討から出雲系の神と考えられるからである。度会氏も出雲系である。であれば彼らが榎玉命を祀っても、何らおかしくは無いからである。ではなぜ彼らは、榎玉命を取り替えたのか。それは何か「出雲隠し」とでもいうべき一大事変が起きたからではなかろうか。記紀において「出雲の国譲り」は最も大きなテーマとして取り上げられている。記紀での取り上げられ方は、些か大げさなくらいであり、そんな勢力が何処に存在しているのかと疑われるほどである。

この「出雲の国譲り」問題は後半部で大きく取り上げるが、国譲りが記紀の世界での出来事とするなら、現実世界での出来事としては、あらゆる出雲に係わる事象の抹消が行われたはずである。これを本考では「出雲隠し」と名付けることにするが、この「出雲隠し」が伊勢の地でも行われた可能性がある。出雲に係わる氏族や神社にとって、この「出雲隠し」は一大事件だったに違いない。伊勢氏も度会氏も当然この事件に巻き込まれたといえよう。

彼らはそれぞれの立場で、自らを韜晦する作業を行なったことになる。伊勢氏の場合は伊勢津彦に替わる天日別命を創作した。この命に出雲の香りは全く無い。度会氏の場合は荒木田氏との確執と出自の隠蔽との二つの作業が必要となったが、彼らは大若子命を誕生さ

せ、『太神宮本記』の中で活躍させることで、この窮地を脱しようとしたと考えられる。度会氏が一時期、天日別命を受け入れたのも、このような追い詰められた状況下にあったからであろう。彼らがやったことは、当時であっては見え見えの仕掛けであったのかもしれない。しかし、長い歳月が経ってみると朝靄に霞む遠景のようになってしまったといえよう。

話は前に戻るが、このような理由で櫛田神社の櫛玉命は、大若子命に替えられたと云える。新しい櫛田の祭神は出雲臭の全く無い大若子命になった。しかもこの命は天照大神が伊勢に鎮座したときの功労者である。天皇家から見れば功臣とでもいうべき人物である。その人物を度会氏は祖神とした。恐らく櫛田神社での大若子命の祭祀は盛大なものだったに違いない。この度会氏の企画・演出は大成功を収めたようである。その後の櫛田神社の盛況が大西源一氏の「櫛田神社由書」に記されているからである。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

VECに着任して早や9カ月が経ちました。その間にも英国ではEU離脱に向けた準備が進み、米国ではトランプ大統領が就任、韓国では大統領の交代が決まるなど、世界情勢は大きく動いており目が離せない状況です。(Kamiki)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)